ここらでお茶を一服、温かく香ばしい湯気と香りに「充実」という希望の茶柱が一本

CHÁ

われら茶柱探検隊

027

2019 Winter

–冬梢–そして副都心

〈論文〉資本家社会主義の時代

在野 門外

まさに時代は変革した.

現代はそれを痛切に肌身に感じる時代である.

古のCapitalismへの警鐘以後，人類社会は特にその経済構造に試行錯誤を繰り返し，そしてまた同じ過ちをも繰り返し続ける.

文化の発展はそれに隷属する従順な大多数の人間を前提として文明へと昇華し，宿命的にその成長を止める能力にこれまで理性を持ちえなかった.

そして人間本能とも言っていいその性質は，社会的に見ればこれからも変わる事が無いだろう.

そして現代は大資本への終局的な集権化の特徴を余りにも急激に進化させていると言える.

省みるにこれまで社会の成り立ちは，集団の巨大化によって国家が成り立ち，そして国境を決め，その国独自の貨幣経済を発展させて国家の信用の元を大基本にして全ては流動してきた.

そしてその中で集団の一人である国民は，一体何を求めてその人生を生きたのであろうか. そして何故資本の成長を求めたのであろうか.

またそれらはこれまでは決まって国家ごとを基本に行われて来たが，果たして国家が保証する私個人の信用をどれだけ保証してくれ，そしてこれからもそれは不可欠なのだろうか.

それでは信用を保証してくれる国家はその保証を何によって国民に与えているのだろうか. その一番大きな物は国家予算である. それを持ってあらゆる事態への補償を国民に与えているのである.

しかし資本主義がここまで合理化された結果，限られた大資本家はそれをターゲットにして信用の根本を国家から資本家へ移行させる事はもう既に想定済みであり，実際その構想を目標として現在も巨大化しているのである.

例えて言えばGoogleやAmazon，そしてFacebook，Appleなどはもうそれを視野に入れ今日もなお巨大化し続けているのである.

もしこれらの資本同士の利害が一致し共同体になった時，その資本が小国の国家予算を凌駕した時，その団体は医療や教育といった国家としての基本整備をその共同体のみで使える貨幣で永続的な補償をすれば，もう国家はいらないのである.

よく言われるグローバル化とは言い換えれば国家の枠を過去の遺物とするという事である.

要するに貨幣である. そしてそれは物では無く債権であり，その債権を今は国家が保証してくれているだけに過ぎず，別の何かが同じかそれ以上の保証をすれば特にそれは国家である必要が無い事を現代は示唆しているのである.（その代表が仮想通貨である）

そしてそこでは全ての手続きがWebで完了し，その保護として人力の労務が付加されるシステムになるだろう.

そうなると果たして人は何を思うのだろう. 何が欲しかったんだろうと思えるのか，それとも何も考えずに今日もAmazon で買い物する為に，又はゲームをする為にWeb決済で1000amzを工面する事を考えているのだろうか.

人は果たしてどうしたいんだろうか?

防人ペンギンの歌

で、いつやくにたつの？

前号の茶柱探検隊 特別付録
『後でぜったい役に立つ ペンギン図鑑』。

予想外に皆さまから色々な評価や感想をいただき、僕も絵描きとして、少しは世の中のペンギンの役に立てたのかもしれないと思いました。

あらためて、読者の方々と『茶柱探検隊』に感謝したいと思います。

ほんとうに、ありがとうございます。

防人歌

全部わかるか？ オレペンQ

大人ペンギンの流線型のフォルムもスタイリッシュですが、幼鳥時代のモコモコしていて腹ペコな姿の魅力も忘れてはいけません。さて、A～Dが何ペンギンのヒナなのか全部わかりますか？
ヒントはクチバシの形状や足の色。ペンギン図鑑も参考になるかも！正解は次回。お楽しみに！

写真協力／ studio BOW

暮らす旅　京都

ろおじの魔力

文／松岡伸吾（暮らす旅舎）

暮らすように旅することこそ、旅の極意だと思う。大切なのは食。

初めての土地でも、名所巡りは後回し。まずはその土地ならではの食材を求め市場やスーパーに出かける。食事や買い物に行けば店の人と言葉をかわす。そこにはガイドブックでは得られない出会いやニュースがある。

そんな視点から京都の本を５冊出してきた。でもなぜ京都なのか。

全国の町がシャッター街をかかえ、大型店舗が郊外を席巻する今も、京都には小さな店が多く残るし、若い世代が立ち上げた店舗も少なくない。東京に続々オープンする商業施設は、どこも似たような店ばかり。ちょっとめずらしいと思えば、地方発の店舗だったり。

京都の町のあちこちにある細い路地。これは「お」に軽くアクセントを置いて「ろおじ」と呼ばれる。不思議な佇まいに惹かれ恐る恐る入れば、行きどまりもあるが、中には本屋や雑貨店、喫茶や料理店などさまざまな店が見つかる。その楽しみをまとめた暮らす旅舎の最初の本が『京のろおじ』だ。

そしてこの春６冊目となる『福をよぶ　京都・暮らし暦』（仮題）を青幻舎から刊行する。おせちなど行事料理に詳しい料理研究家小宮理実さんが著者で、二十四節気を大事にする祖母や母から受け継いだ京都の食と暮らしを紹介する。

さて食でやっぱりお勧めしたいのは京都の市場。観光客で溢れかえる錦市場よりも、七条の京都市中央市場はぜひ訪れてほしい。

店と住宅が混在する西陣の路地

宮川町の路地で撮影した表紙

料理研究家の小宮理実さん

空が見た日本

連載

写真家 畑 亮 (Ryo Hata)

この真っ白な世界を見るがいい。
そしてしばし目をつぶり
この列島が造られた時を想うがいい。
それに比べれば、
拙い我々の祖先がこの列島に辿り着いたのは
つい昨日の事である。
〈幻住斎〉

ー栃木県宇都宮市徳次郎町ー 大谷石採掘場

約70年間掘削された立坑の跡が大谷資料館として再生されている。その神秘的な巨大空間地下30mにある資料館を見て感激し、40年前に撮った大谷石の住宅写真を手に徳次郎町を訪ねた。2,000万年前の頃、日本がまだ海の中にあった時代、火山が噴火して火山灰が海底に沈殿し固まった凝灰岩だそうだ。人に利用され始めたのは古墳時代からで大谷石の石棺が見つかっている。

フランク・ロイド・ライト設計の旧帝国ホテルに建材として使用され、それ以来一般に使われ始めたようである。現在で数少なくなった露天掘、下から見ても上から見ても見事なまでに掘り起こされた岩山は日本とは思えない世界に圧倒された。

曲がり角の向こう側

連載
写真作家
与儀達二

角を曲がった私はいきなり陰に頭をぶつけた。軽い眩暈を覚えながらそのまま歩を進めたが、もう私には幻惑しか見えない。
〈幻住斎〉

巷路不錯※

写真家 北田英治

這裡什麼路。
誰去哪裡就你去哪裡。

森坂 台湾

膨湖島 台湾

※“素晴らしい路地”ここはどこの路？誰かが行く路に、あなたも行ってみては？

連載

和田堀散歩

写真家 下瀬 成美

杉並を流れる善福寺川は、全長 11.3km の小河川です。
中流域の、和田堀公園には、カワセミ・サギ、
雑木林には、モズ・アオゲラなども見られ、
都会に残る格好の散歩道です。

gotcha

Photographer 南雲保夫
instagram y.nagumo

乾燥しきった大地の遥か奥にも、真紅の炎は今も滾り続けている。
負けるもんか、私の燃え滾るマグマも、もう消しようがないんだ。〈幻住斎〉

田村 収の光景 <有機物としての時間軸>

11月下旬に仕事で、紅葉時期の新薬師寺に訪れることになり、まずは下見のために奈良駅から循環バスに乗って、観光地である東大寺や春日大社、奈良公園と通り過ぎ、寺院最寄りの停留所でバスを降りた。歩き出してすぐにふと脇道を見るとピラミッド型の異様な存在感を放つ石造りの塔がチラッと目に入ってきたので、現場よりも先に引き寄せられるように立ち寄った。

塔は隣接するホテルに監理されているため、フロントに維持監理費を払って中に入る。30m四方の方形7段の石造りの塔は『頭塔』と呼ばれ、東大寺の僧実忠(じっちゅう)が奈良時代に築いた土塔で、仏舎利を納めた仏塔と考えられているそうだ。印象的なその名称は、藤原広嗣(ひろつぐ)のたたりで死んだ僧玄昉(げんぼう)の頭を埋めた墓との伝説があり、その名の由来とされてきたようだが、土塔(どとう)がなまって頭塔(ずとう)と呼ばれるようになったものといわれている。

奇数の段には、レリーフ状に掘られた石仏が複数安置されており、偶数の段から葺き下ろされた瓦葺きの屋根によって、それぞれが祠のようなデザインを形成し、塔の四方に点在することで中国のチベットにでも存在しそうな見た目のインパクトがあった。

ただ、整備されている部分は全体の半分程度で、反対側に回ると小高い山に鬱蒼とした木々が生えていて、その狭間に石仏が点在している様相なので、今後の整備の状況で完全体になるのかも気になりつつ、その場を後にした。

田村　収

何も知らないあなたのことを。

泣かず叫ばず微笑みもなく

嫌悪なくまた愛もない。

離れていつか思い出す。

なにも知らないあなたのことを。

「若草の播種」

Sowing seeds with Key Lime Pie

追想するということについて

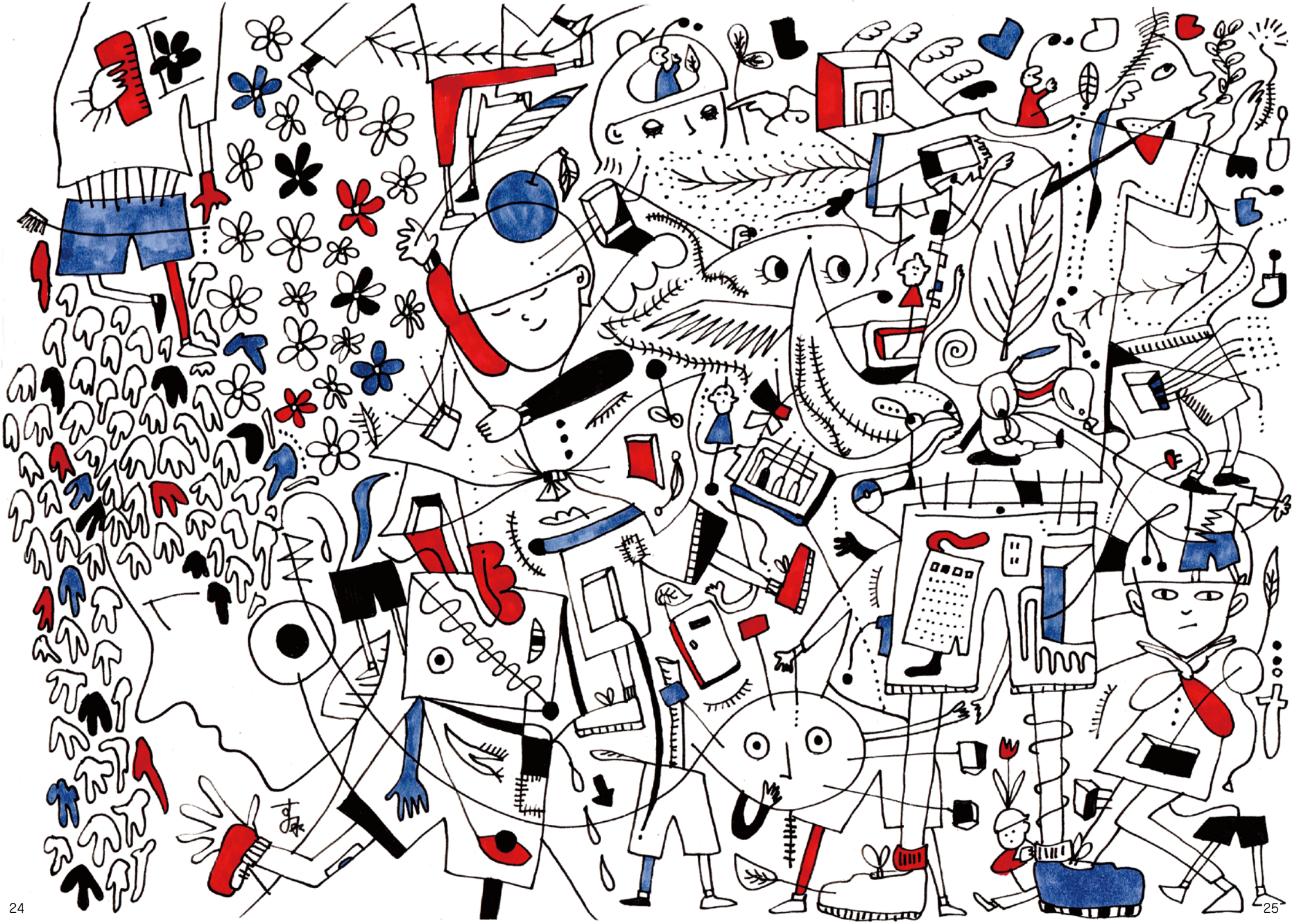
千葉 尋 (Hiro Chiba)

写真作家

新連載！

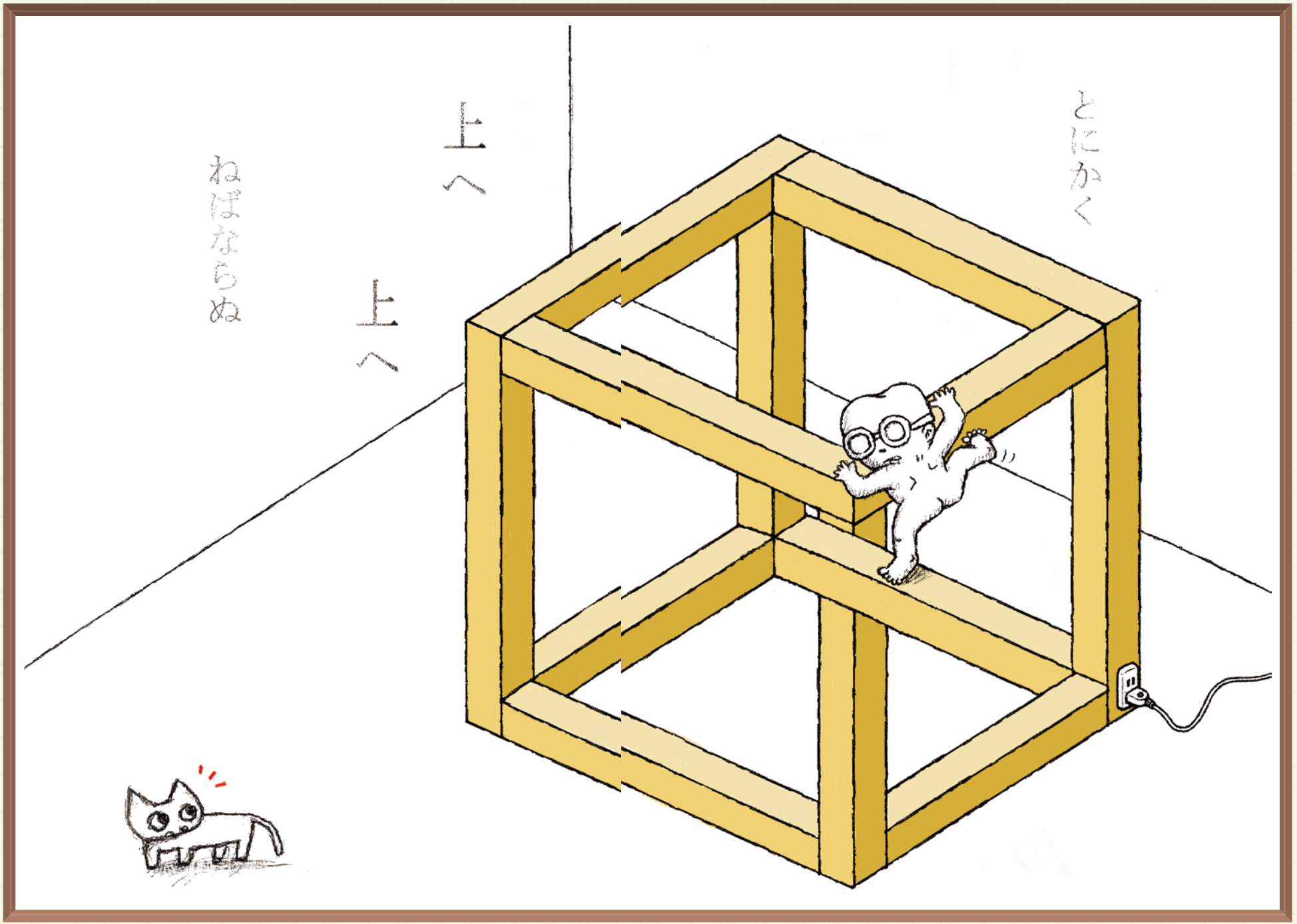
デスサビ
―― 心の旅 ――

すみれこ
sumsumhomhom@gmail.com
@sumsumhomhom
h_sumireko



連載

画士 大村泰久



昨年の晩秋、数十年振りに師にお会いして、京都にて一献を交えた。
旧交こそ実に重宝な物である。正に現在の基盤である。〈幻住斎〉

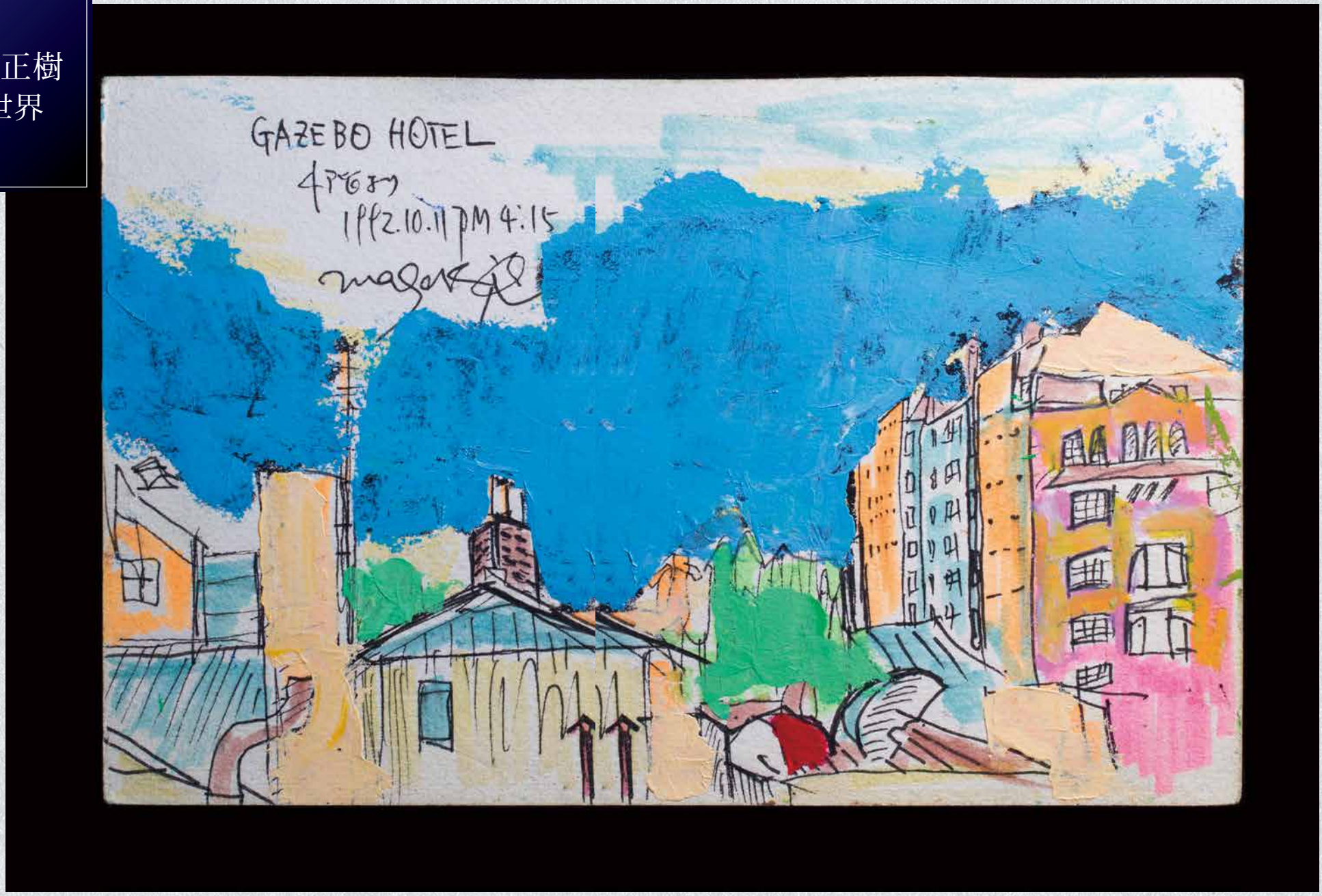
原初、花たちが我々に命をくれた、だから我々はまるで花たちのように、今も命の限り恋をしているんだ。

TAKUJI glance

通り過ぎる街の風が、キラリと光るんだ。

ササキタクジ　東京生まれ。武蔵野美術大学卒。
90年代、職場であり、青春を謳歌した青山三丁目エリアで、多くの友達と出会い、酒を飲み、人生を語り……その時の流れの中で、描き綴ってきた数々の絵は、輝きを放つ。

茶柱絵画館
小俣正樹の世界



南十字星を見たいわけじゃないけど、

私は赤道を超えて南下した。だから今こうしてシドニーの春の風と空に私は包まれているんだ。

〈幻住斎〉

ちくちくちっくのCHIKU CHIKU NU NU vol.24

私が Chick

普通のセーター

いつもは
こんな編み方で編んでみたい、
どうやって編むんだろう？
など「編むこと」を考えて
毛糸を選んだり、本で研究したり。

でも今回は「着たい服」を編む、
ということでこんななんでもない
普通のセーターを編みました。

色は大好きで着ていて落ち着くネイビー寄りで、
ラグラン袖、裾と袖口のゴム編みは長め、
そして、ハイネック。
とっても軽くて、あったか。
ばっちりの出来です！！

ラグラン袖は苦手でドキドキなんですが、
なんとかなったかな？

AVRILの「フォギータム」
ネイビー
100g購入しましたが、使用したのは半分くらい

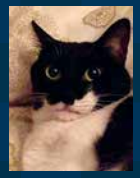
ユザワヤの品「PLEASURE」
黒　7玉
セール品で10玉2980円だったかな？

photo by kamar

墨は踊る

瑞色鮮やかなり

……めでたい色がはっきりしている



土工 えり

書、篆刻、消しゴムハンコ等で作品を制作中。ウロコダケ名義でデザインフェスタ等のアートイベントにも不定期で出展しています。お店のロゴ等の文字デザインや篆刻のオーダー随時受付中。
http://eridokou.exblog.jp/

1月なので新春らしい言葉を選びました。お正月やお祝いの席での常套句です。このページを読んでくださる皆様と私と世界中の猫ちゃんの1年が鮮やかなものになりますように。

締切の時期的に私の書き初めだったので今年の抱負にしようかとも考えたのですが、毎年「時間を大切に使う」とか「毎日丁寧に過ごす」などが多く、何故か時間を気にしがちだな、と今更ながら気づきました。お察しの通り、毎年目標にするくらいなので自分の思い通りに時間を使えていないのです。それならばと今年は何も決めないことにしました。行き当たりばったりでもその都度頑張れたらいいなとぼんやりと思ってます。